

5G等の活用による製造業のダイナミック・ケイパビリティ強化に向けた研究開発事業 令和3年度概算要求額 **18.0億円**（新規）

事業の内容

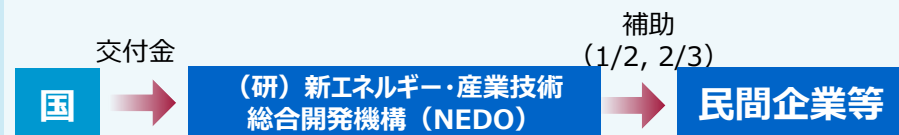
事業目的・概要

- 今後、今般の新型コロナウイルス感染症の世界的流行のような不測の事態が発生した場合においても我が国の製造事業者がサプライチェーンを維持するためには、企業間、企業内、製造現場といった各レイヤーにおいて、柔軟・迅速な対応によりこれに対応する「企業変革力」（ダイナミック・ケイパビリティ）を強化する必要があります。
- こと製造現場では、5G等の無線通信技術の活用により、柔軟・迅速な組換えや制御が可能な生産ラインを実現することが重要であり、これは生産ラインや工場の省エネの促進にも資するものです。
- 以上を踏まえ、所要の研究開発を推進し先行事例の創出や実用化を図ることで、将来の関連市場獲得や、我が国の製造事業者全体のダイナミック・ケイパビリティの強化及び省エネ促進の実現を目指します。

成果目標

- 令和12年度までに、本事業による技術開発成果の実用化を通じて、我が国産業部門において413万t-CO2の排出削減を目指します。

条件（対象者、対象行為、補助率等）

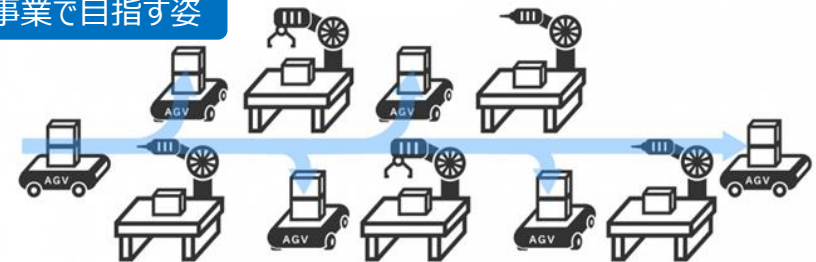


事業イメージ

従来の生産ライン



本事業で目指す姿



- 加工順の組換えや個々の生産設備の動作の変更等、柔軟・迅速な組換えや制御が可能な生産ラインの実現を目指す。

想定される研究開発課題の例

- 異なる生産設備等を一括で最適制御するためのプログラム開発
- クラウド上からの制御指示を個々の生産設備等に正確かつ迅速に伝達するための技術の開発